Muse不具合一覧 - Bug #48
(V5.91)HEAD文字列に指定したフォントが反映されない場合がある

2013/12/31 11:35 - Redmine Admin

ステータス:	終了	**開始日:**	2011/05/09
優先度:	通常	**期日:**	2011/05/12
担当者:		**進捗 %:**	100%
カテゴリ:		**予定工数:**	0.00時間
対象バージョン:		**作業時間の記録:**	0.00時間

説明

状況(2011.05.12)

V5.92にて対処済み。

(原因)
V5.23からV5.24へのマイナーバージョンアップにてシーク高速化処理を施した。
その開発途上でシークポイントまでテキスト表示が存在しない場合に
 フォント切り替えを実施する処理を組み込んだが、結果的にそれが不要になるシーケンスに落ち着いた。
しかるに、開発途上でのフォント切り替え処置の削除をし忘れていた。

(対処)
フォント切り替え処置の削除を行った。

概要(2011.05.09)

HEADタグのフォントの件です。
 通常HEADタグは、それ以前に書かれたFONTタグで指定されたフォントで描画されると思います。
ところが、HEADタグの後にFONTタグがある場合、再生位置がそのFONTタグの位置の後にある状態で
Muse のウィンドウを他のウィンドウで隠し、再び Muse のウィンドウを表示させると、
HEADタグより後で指定したフォントで再描画されてしまいます。
Windows XP 上で確認しました。

関連するチケット:

関連している Release # 147: Muse V5.91	**終了**	**2011/05/07**